

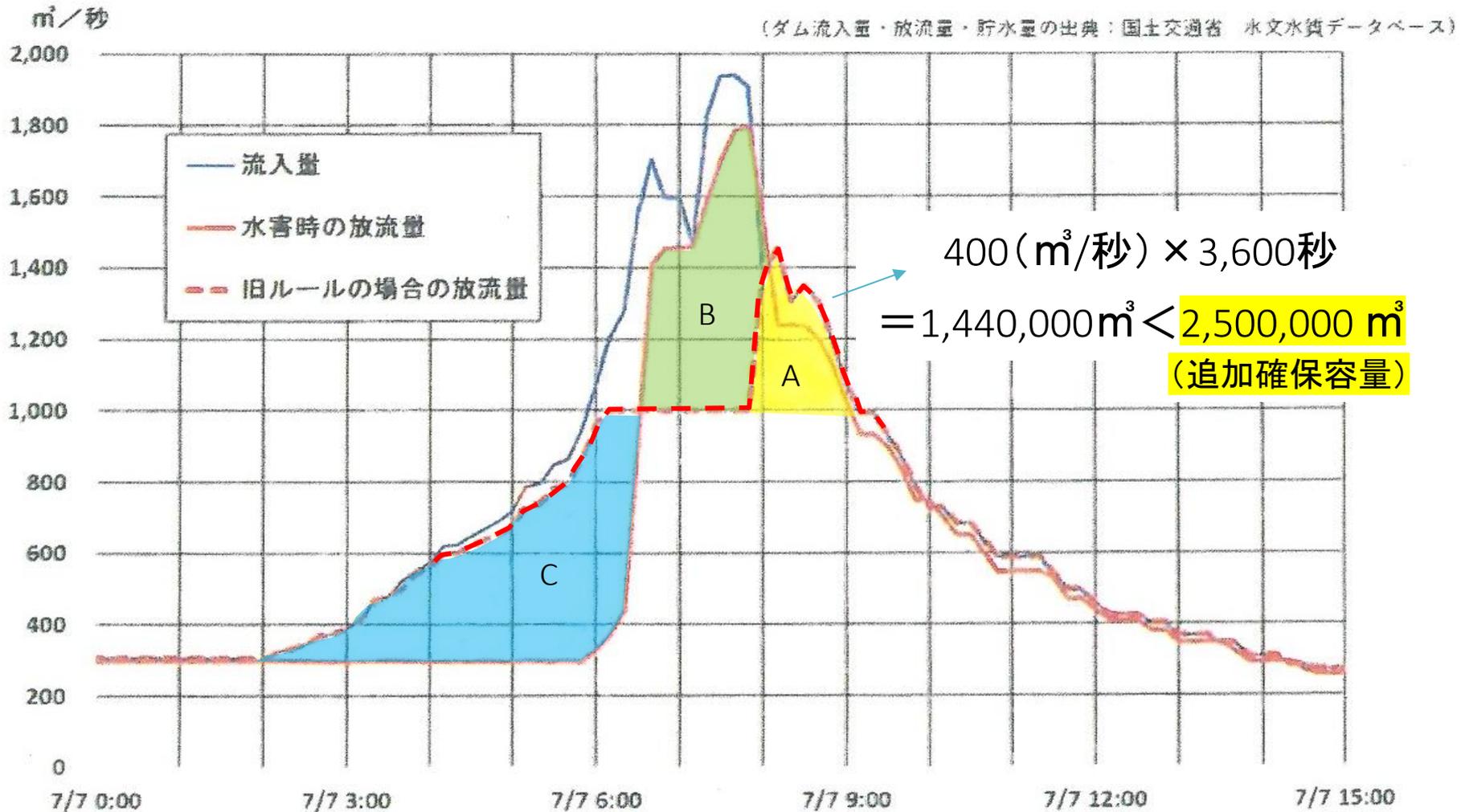
# 說明資料

# 逃げ遅れた人々



操作規則が変更されたために、起こった水害

# 野村ダムの旧規則による放流量 2018年7月



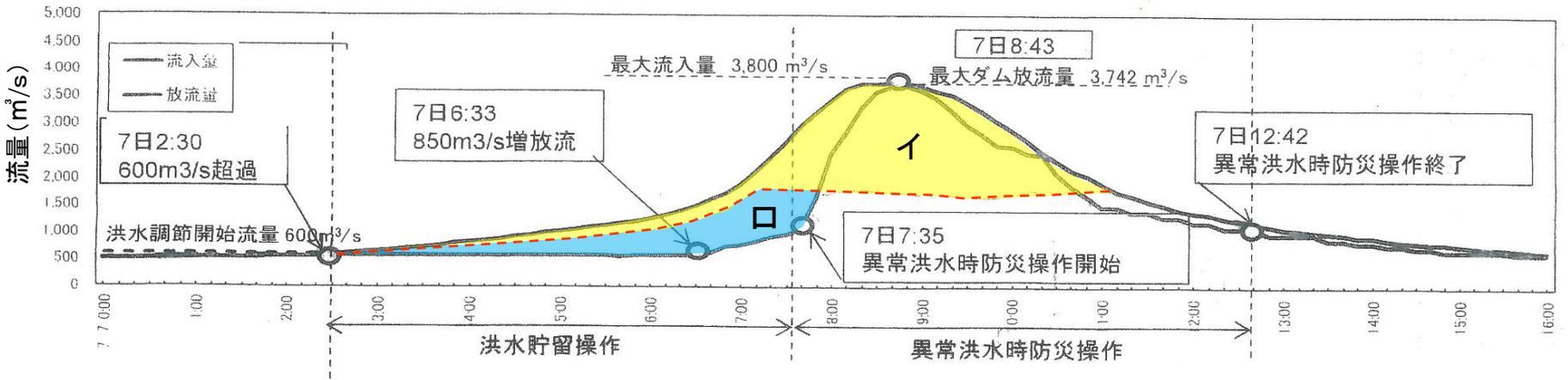
A 旧規則でも毎秒1,000トンはオーバーすると国交省が説明している部分

A + B H8年変更規則によって毎秒1000トンを超えた水量

C 旧規則では事前放流で確保できた空き容量

# 鹿野川ダムの旧規則による放流量

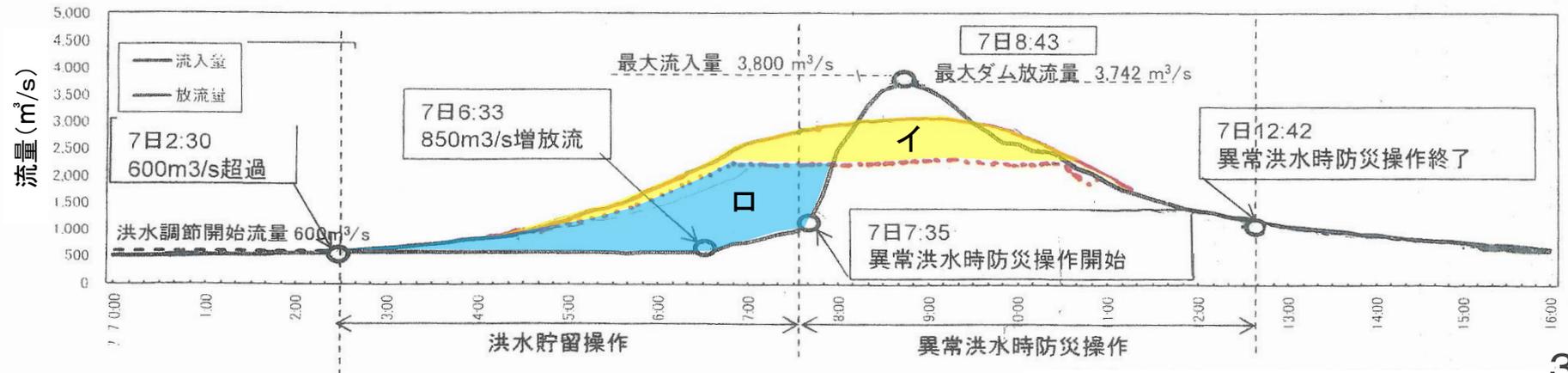
## ■実際の流入量による試算



イ 旧規則で基本計画の放流量（毎秒1,450トン）に抑えるためにダムに貯留する容量

ロ 旧規則によって事前放流で確保できた空き容量

## ■野村ダムが旧規則（平成16年に国土交通省本省が示した一定率一定量方式）で放流した場合の流入量に基づく試算



(西予市の主張)

「98%の人が避難した

→ 避難しなかった人＝亡くなった人には不注意があった」

しかし

西予市は家屋が放流で丸のみになることを知らせなかった。

浸水に気づいてから、多くの人は避難した

気づくのが遅くなった人は、危険にさらされた

川に近い人、川を見ていた人こそ遅れた。

## 危機的状況下にいた人

Aさん、Bさん 家の屋根に登った

甲さん 消防団員の声掛けなし  
息子さんが気付いて、階段まで水がきた。首まで水が、泳いで避難

乙さん 消防団員の声掛けなし  
たまたま家の外に出たら消防車

丙さん 避難する間もなく水が来て外に出れなかった。  
たまたま地下の部屋に寝なかった

丁さんの娘さん 運よく二階の天井までは水が来なかった

戊さん夫婦 子供夫婦は屋根に、  
高齢で屋根に登れないので、ベットで二人覚悟を決めた